

通告時間 60分

石渡 悦子 議員

成田空港の今後と本町への影響は

発着回数の増加に伴う騒音問題に取り組んでいきたい

成田空港をとりまく諸問題について

問 前原国土交通大臣の羽田空港ハブ化発言や、空港整備会計の縮小など、様々な政策が打ち出されていますが、町長の見解を伺います。

町長 成田空港建設当初から国の基本方針である「成田は国際線の基幹空港。羽田は国内線の基幹空港」とする内閣分離施策を、基本的に廃止するとの発言は、歴史的な経緯からも到底容認できるものではないと認識しております。

問 年間発着回数30万回への容量拡大について、町長のお考えを伺います。

町長 成田空港圏自治体連絡協議会において「成田空港の限界論を打ち消さなければ、成田空港の存在はあり得ない」という基本に立ち返り、空港会社や国に要請をした経緯があります。最大30万回なら現在のままでも機能出来るとの話からできました。22万回から30万回に移行した場合の経済効果は、参考数字1兆1388億円の増加と示されております。こういうものをとらえて、市町村ごとに具体的効果について、今後研究してまいりたいと思っております。

問 環境基準達成状況が50%前後の状況で、騒音下の住民の皆さんの生活を考えれば、まず騒音被害補償対策に取り組むべきだと思います。

町長 地域の騒音対策をにおいて30万回はないんじゃないかという

考え方は、私も同じです。空港交付金の大半が、成田市・芝山町にいつてしまう現状から、私はこの交付金の配分方式を変えるように働きかけを強めてまいりました。バランスのとれた事業ができるよう交付していただきたいということは、今後とも要請していきたくと考えています。五辻地区については、今度の30万回の方向になりますと共同利用施設の設置等も考えていかなければならないと認識しておりますので、積極的に要請してまいります。

問 五辻地区の夏期の調査で最大値79・6デシベル(交通量の多い交差点と同じくらいの騒音)です。生活実態にあった数値をつかむためにも冬期の騒音調査もお願いします。

町長 冬も継続して実施させていただくということでお約束します。

企画財政課長 日程としましては、1月の終わりに、あるいは2月初旬にかけて短期でやらせていただきましたと考えています。

子ども医療費助成の運用について

問 来年度より子ども医療費助成の対象年齢が中学3年生まで引き上げられる旨、方針が示されています。拡充にあたりまして、①窓口負担について②入院日数1日目から対応を③食事療養費は対象外としない④所得制限は設けない⑤現物給付方式での実施——以上

低でも2年かかります。

問 設置までに時間がかかるのならば、道路計画の時点で申請をすべきであったと思いますが、町長は、いつ、要望、申請をしたのですか。

町長 平成17年11月に要望しました。

問 菅澤町長は、平成18年4月から多古町長ですが、町長は未だ要望をしていないのですか。

町長 公式の要望書はありませんが、要望事項は欠かさず要請はしていたところです。

問 町長自身は要望、申請をされてない、これは本場に困った。申請から設置まで2年かかるとの事ですが、過去に県内では首長の努力によって半程度で信号機が設置された事例もあります。子どもたちと住民の安全を確保するために、町長の熱意を関係機関へ示すべきだと思います。

町長 ご指摘のように認識しております。

特別職の退職金制度について

問 町長、副町長、教育長の1期4年の退職金はいくらですか。

総務課長 町長は1690万円、副町長は770万円、教育長は540万円です。

問 今月、町全職員、議員が6月に引き続き給与や手当の減額をしまし

の点でご努力をお願いいたします。

町長 制度の拡充にあたり、基

本的には現行の乳幼児医療制度を包含した形を検討しており、所得制限も設けない予定です。ただ、現物給付につきましては、国保連合会に審査・支払事務を委託し実施していること、また現在県の対象年齢引き上げ等について詳細が示されていないことなどから、当面償還払い方式(窓口でいったん支払ってから町に請求する)で対応せざるを得ないものと認識しております。助成対象者の利便性や事務処理の効率性からも現物支給が望ましい形です。町としても県等と調整をしてまいりたいと考えております。



対象年齢拡大へ期待！
多古中央病院小児科にて

※ハブ空港 各地方へ放射状に伸びた航空路線網の中心として機能する拠点空港を意味します。
※成田空港圏自治体連絡協議会 9市町で構成(成田市、富里市、香取市、山武市、芝山町、多古町、神崎町、横芝光町、栄町)

た。町長は「厳しい財政だ」とよく言いますが、町が全額負担しているこの退職金を高いとは思いませんか。

町長 妥当性は充分あると認識しており、それ以上のコメントはありません。

多古台住宅開発について

問 多古台は大事な土地ですから一時的に人口が増え、税収が増えればいいということではいけないと考えます。20年、30年、50年先の多古町を見据えた上で交渉をして頂きたい。

都市整備課長 業者は「エコタウン」という話もしています。まず開発許可を受けてから、統一のとれた景観ということで建築協定や、都市計画法に基づいた地区計画を立てるといったことで業者と話をしております。

問 町長に答弁を求めたのですが、信号機の問題も、町長の熱意が伝わってこない。設置されなければ危険な日々を送り、菅澤町長がもつと早く行ってあげば出来たのにならぬことになり

町長 今後とも努力する内容です。



往來の激しい南郵便局前交差点を視察(産業建設委員会)

通告時間 90分

所一重議員

4年で1690万円の退職金を高いと思いませんか

妥当性は充分あると思います

交通安全対策について

町長 最近になって、成田空港30万回を含めた共存共栄の繁栄を模索する中で、再度広域圏の行政単位にしていくという雰囲気が出てくる状況です。今後ともこの方向について努力をしてまいりたいと考えています。合併問題について全く違う方向になったということではないと認識をしております。

問 第一小学校前から多古台を通って国道296号までの都市計画道路が平成22年3月に完成し、8月に供用を開始すると交通量が大幅に増えます。現状でも危険な南郵便局前交差点と小学校前に信号機設置は不可欠と思えますが、

町長 信号機設置には申請をしてから、設置してもらうまで、最

町の将来ビジョンについて

問 菅澤町長の最大の選挙公約である成田市との合併が実現不可能となった今、早々と9月に再選へ向け出馬表明されましたが、町長の目指す未来の多古町とは、どのようなものか伺います。現在少子化の影響で様々な弊害が起きていくことから、子どもを産み育てやすい環境整備と多古台に民間の力を活用した住宅開発が重要と考え、先の町長選挙において、私の大きな公約の一つとしましたが、現状での町長の考えを伺います。

子ども医療費助成の運用について

問 来年度より子ども医療費助成の対象年齢が中学3年生まで引き上げられる旨、方針が示されています。拡充にあたりまして、①窓口負担について②入院日数1日目から対応を③食事療養費は対象外としない④所得制限は設けない⑤現物給付方式での実施——以上

町長 公式の要望書はありませんが、要望事項は欠かさず要請はしていたところです。

特別職の退職金制度について

問 町長、副町長、教育長の1期4年の退職金はいくらですか。

総務課長 町長は1690万円、副町長は770万円、教育長は540万円です。

問 今月、町全職員、議員が6月に引き続き給与や手当の減額をしまし